

令和7年度釧路地域づくり連携会議 議事録

令和7年8月22日（金）10:00～12:00

釧路地方合同庁舎5階 共用会議室

○釧路総合振興局 村木地域創生部長

ただいまから、令和7年度釧路地域づくり連携会議を開催いたします。本日の進行を務めさせていただきます釧路総合振興局地域創生部長の村木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日は、6月30日に開催された「地方創生タスクフォース会議」における、北海道からの提案に基づき、地域の特性を活かしたプロジェクト推進の加速化などを図る観点から、国の地方支分部局の皆様にもご出席をいただいております。

それでは、開会にあたり、釧路総合振興局長の寺田より一言御挨拶を申し上げます。

○釧路総合振興局 寺田局長

皆様、おはようございます。お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。また、管内1市7町村の首長の皆様、副町村長様におかれましても日頃から地域の発展にご尽力を賜りまして、誠にありがとうございます。

先ほどお話がありましたように、今回の会議から、「地方創生2.0」を推進するため、北海道よりお願い申し上げまして、お忙しい中、新たに国の地方支分部局の皆様にもご参加をいただいております。誠にありがとうございます。

さて、この連携会議につきましては、北海道と北海道開発局がそれぞれ5年ごとに策定します政策展開方針と地域づくり推進ビジョンの推進状況の報告とあわせまして、地域課題の解決に向けて、出席者の皆様から様々なご意見・ご提言をいただきながら、今後の政策に反映していくことを目的として開催しているものでございます。

本日の会議につきましては、昨年度の連携会議の中で、意見交換の発言機会が少なく、議論が深まらないといった意見、さらには広域観光について議論できる場を設定していただきたいといったご意見を踏まえまして、議論するテーマを「地域の強みを活かした広域観光の振興と地域活性化」に絞りまして事前にご意見をいただいております。論点を整理した上で、皆様と議論を深めていきたいと考えてございます。会議を通じまして、地域の強みや課題を広く共有しまして、今後の効果的な政策展開につなげてまいりたいと考えてございますので、忌憚のないご意見・ご提言いただきながら、有意義な会議となることをご祈念申し上げ

げまして、簡単ですけども挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いを申し上げます。

○釧路総合振興局 村木地域創生部長

次に、お手元にお配りしております資料を確認させていただきます。会議次第の下段に配付資料の一覧がございます。会議資料といたしまして、資料1、資料2-1、2-2、資料3-1、3-2、3-3、その他の参考資料として1～5までの資料をお配りしております。

不足資料がございましたら、お手数ではありますが、事務局までお知らせ願います。

それでは、次第に沿いまして会議を進めさせていただきます。「2 議事」(1)「釧路根室連携地域政策展開方針の進捗状況について」、釧路総合振興局地域政策課長の松本からご説明をいたします。

○釧路総合振興局 地域創生部 地域政策課 松本課長

釧路総合振興局地域政策課の松本です。よろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

資料1をご覧ください。本資料につきましては、昨年度策定しました釧路・根室連携地域政策展開方針の地域重点政策ユニットに掲げる4つのプロジェクトにつきまして、釧路地域における昨年度の取組成果や今年度の主な取組など、推進状況を整理させていただいたものとなっております。

はじめに、1ページをご覧ください。「新技術や強みを活かした酪農・漁業など地域産業の振興プロジェクト」といたしまして資料の中段にあります。これまでの取組の成果につきましては「ICT等を活用した農林水産業の生産力強化」として、飼料用とうもろこしの増産・安定確保を目的とした栽培マニュアルを昨年7月に作成し配布しました。「地域の産業を支える企業の振興や担い手不足対策の推進」として、じもと×しごと発見フェアを開催し、204名の学生に参加いただいております。「地場産品の高付加価値化や国内外への販路拡大の推進」として、MOO横で開催されたイベントにて「くしろ地域の色々なお酒」ブースを出展し釧路地域のお酒をPRしたほか、どさんこプラザ札幌店にて釧路フェアを開催させていただいております。

KPIの実績値につきましては、農業は集計中ですが、漁業及び林業につきましてはともに基準年を上回っております。

今年度の主な取組としましては、引き続き、酪農家の経営安定化に向けた取組や、高付加価値化や販路拡大に向けた各種フェアの開催、管内飲食店等と連携したくしろ地域のお酒のPRを実施する予定となっております。

続いて2ページ目になります。「釧路地域でつながり地域を支える人材の創出・活躍プロジェクト」です。

これまでの主な取組の成果につきましては、「地域の強みを活かしたATなどによる観光の振興」としてATセミナー及びATスルーガイド育成講座を開催したほか、北海道横断自動車道の延伸を契機とした魅力発信としてローソンと連携した釧路地域のご当地メニューの発売や、ポケモンやAIRDOと連携したスタンプラリーを開催し約6,200人の方に参加いただいております。「移住・定住や関係人口の創出・拡大」として、東京で開催された北海道移住交流フェアへ出展し25名の方に直接PRさせていただきました。「地域の担い手の育成と活躍の場づくり」として釧路・根室管内の地域おこし協力隊を対象として交流促進に向けた研修交流会を開催しております。

KPIの実績値は記載のとおりです。

今年度の主な取組としましては、四季を通じた滞在型観光や管内自治体と連携したATの推進を進めるほか、市町村移住担当者向け研修会の開催や冷涼な気候を活かした地域情報の発信、地域おこし協力隊及び管内大学生向け研修会等の開催を実施してまいりたいと考えております。

続いて3ページ目になります。「地域資源を活かした『ゼロカーボン北海道』推進プロジェクト」です。

これまでの主な取組の成果につきましては、「二酸化炭素吸収源の確保と自然環境の保全」としてブルーカーボン・クレジットセミナーやエステークリアフォレストの森植樹会・木育教室を開催しております。「ゼロカーボン北海道の実現に向けた理解促進や機運醸成の推進」として専門家を招聘した出前授業やパネル展を開催しております。

KPIはどちらも現在集計中です。

今年度の主な取組としましては、セミナーやパネル展を引き続き開催するほか、学習・教育機会の創出、木育を通じた森林づくりや木材利用の理解促進を進めてまいりたいと考えています。

最後に4ページ目になります。「災害に強く安全・安心な暮らし、子育てを支えるまちづくりプロジェクト」です。

これまでの主な取組・成果としましては、「地域の医療体制の構築」として釧路圏地域医療構想調整会議を開催したほか、「子育て支援・高齢化対策と生活基盤の確保」として釧路地域少子化対策圏域協議会及び釧路地域子ども支援ネットワーク会議を開催、「地域防災力の充実・強化」として北海道地域防災マスター認定研修会や防災学ぶランドinくしろを開催しました。

KPIの実績値につきましては、地域防災マスターの登録者数が目標値の120名より6名多い126名となり、他のKPIは集計中となっております。

今年度の主な取組としましては、各種研修会や防災イベントを引き続き開催するほか、釧路圏域地域医療構想調整会議も開催したいと考えております。

説明は以上となります。

○釧路総合振興局 村木地域創生部長

ただいま説明のありました内容につきまして、ご質問や御意見がありましたらご発言をお願いします。

(特になし)

特にないようですので、次に進みます。

次に、「2 議事」(2)『『地域づくり推進ビジョン』のフォローアップについて』、釧路開発建設部から説明をお願いします。

○釧路開発建設部 地域連携課 井川課長

釧路開発建設部地域連携課長の井川でございます。着座にて説明させていただきます。

私からは資料2-2によりご説明いたします。まず資料2-2、1ページ目をご覧ください。

昨年度作成いたしました、地域づくり推進ビジョンにおいて定めた「地域のめざす姿」、その実現に向けまして「食・産業」、「観光・交流・文化」、「環境・エネルギー」、「社会基盤・暮らし」、「北方領土」の5つのテーマ毎に取り組む内容を記載しております。

続きまして地域の現状と課題でございますけれども、2ページ目をご覧ください。

本日の意見交換のテーマに関連したところで申し上げますと、上段の真ん中に月別の観光入込客数のグラフを掲載しておりますけれども、全道の動向と同様に釧路地域におきまして、夏にピークを迎え、2月に少し増加しますけれども季節変動が激しいという課題がございます。

その下の環境エネルギーにおきまして、釧路湿原におきましては自然再生事業の効果もありまして、近年では湿原の面積が保たれているところであります。

つづきまして3ページ目をご覧ください。

先日も津波警報への対応がございましたけれども、やはりこの地域におきましては、千島海溝・日本海溝周辺海溝型地震をはじめとしまして、自然災害のリスクが存在しております。先日の津波警報におきましては管内で約6,400人あまりの方々が最大で避難する事態となっております。この合同庁舎にも多くの方々が避難されてきたところでございます。

続きまして4ページ目をご覧ください。

資料にございますような課題を、解決するために国においては6つのプロジェクトを関係機関との連携により展開することとしております。次ページ以降に各プロジェクトの概要を記載しておりますけれども、抜粋してご紹介させていただきます。

6 ページ目をご覧ください。

人流・物流ネットワーク形成プロジェクトと題しておりますけれども、飼料や生乳などの物流はもちろん、観光や救急などの人流を含めたあらゆる分野の活動を支える交通ネットワークの形成に向けて道路や港湾等の各種事業を推進してまいります。

7 ページ目をご覧ください。

本日のテーマにも関係しますけれども、交流・関係人口の創出・拡大プロジェクトにつきましては広域観光の振興にむけて、かわまちづくり、シーニックバイウェイ、みなとオアシス、わが村は美しく-北海道運動など、各種施策を推進してまいります。

なお、地域共創インフラツアーにおきましては、今年度既に2つのツアーを実施しております。先日「簡易軌道と新釧路川の治水の歴史」を巡るツアーでは、普段見られない旧岩保木水門の中を見学させていただきました。また、標茶町様、鶴居村様のご協力をいただき、簡易軌道の史跡等を見学させていただきました。ご協力いただき、ありがとうございました。こういった取組みを通じまして、釧路のみならず根室も含めた広域観光を推進してまいりたいと考えております。

続きまして、9 ページ目をご覧ください。

強靱な国土づくりプロジェクトにつきましては、千島海溝・日本海溝周辺海溝型地震等への対応におきまして、総合的な防災・減災対策の推進、災害に強い港湾・漁港・空港整備、流域治水プロジェクトなどを推進してまいりますけれども、直近の動きとしましては、右下に記載しておりますが、災害に強い道路整備ということに関しまして、津波浸水域までの広域な救援ルートの道路啓開を迅速に行うため「釧路根室地域道路啓開計画」の第2版を本年6月30日に策定したところでございます。

ここからは、第9期北海道総合開発計画に掲げます、共に創る「共創」の取組みをご紹介します。

11 ページをご覧ください。

かわまちづくりの推進といたしまして、本日まで出席いただいている方々にもご出席いただきましたが、本年3月に釧路川流域かわまちづくり協議会が発足しております。流域自治体と関係者が連携してかわまちづくりの取組みを通じて、流域の活性化を図っていくこととしておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

最後に 12 ページとなります。

地域産業の担い手確保に向けた取組みといたしまして、建設業をはじめとする地域産業の多くが人手不足となっている現状でございますので、異業種間での繁忙期・閑散期を勘案した、兼業等の多様な働き方の提案等により地域内外の人材の掘り起こしを進めてまいりたいと考えております。

右下に図がありますが、今後改めて公表させていただきますけれども、釧路総合振興局様や、根室振興局様、釧路建設業協会様、釧路観光連盟様、知床ねむろ観光連盟様等と共創チームを立ち上げ、釧路・根室地域雇用ネットワーク会議とも連携して、取組みを進めていく予定としております。

簡単ではございますが、私からの説明は以上となります。

○釧路総合振興局 村木地域創生部長

ただいま説明のありました内容につきまして、御質問や御意見がありましたらご発言をお願いします。

(特になし)

次の議題に進みます。続きまして、「3 意見交換」に移ります。ここからの議事進行については、釧路総合振興局長の寺田が進めさせていただきます。

○釧路総合振興局 寺田局長

それでは、意見交換のテーマですが「地域の強みを活かした広域観光の振興と地域活性化について」としており、この狙いとしては、釧路エリアは一次産業がすごく盛んで、色々なおいしい産品がたくさんありまして、温泉、アイヌ文化など魅力的な地域資源、ポテンシャルが高いという考えがございます。

さらには自動車道整備がされ、高速道路が繋がって、より一層観光を軸に経済効果を高めていくことが重要かと思いますが、特に道央圏と比べましてインバウンドが非常に弱いと考えております。

札幌駅に朝行きますと日本人より外国人の方が多いという状況で、こちらに旅行客が来ていないという現状を踏まえ、地域全体で点から線、面へ観光の効果を広げてよりお客様を呼べるようにしたいということがございますので、管内が一体となり、地域の強みを活かした広域観光の振興について、皆さんでご議論をしていきたいと考えております。

事前に皆さまからいただいた意見が資料 3-3 になります。これを資料 3-2 に集約しております。

各観光地を組み合わせた広域観光の振興というものをトップにしまして、観光資源の認知度向上、このあたりから課題になろうかと思えます。二次交通の充実や季節偏在の解消、観光人材確保、施設整備というように並んでおります。

今回新しいメンバーも加わっておりますので、自己紹介も兼ねて広域観光を進めるための考え方であるとか、そういった想いも含めて時計回りで皆様から一言ご意見いただければと思います。

まずは釧路開発建設部長様からお願いします。

○釧路開発建設部 畑山部長

7月1日から釧路開発建設部長でまいりました、畑山と申します。よろしくお願ひいたします。最初の勤務地が釧路でして、30 数年振りにまいりましたが、その時と色々な環境が変わってきていると思います。開発建設部、国として出来ることを、皆様と一緒に考えながら取り組んでいきたいと思ひますし、本日いただいたご意見を参考にしながら地域の活性化を図っていきたく思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○釧路市 鶴間市長

釧路市長の鶴間秀典でございます。

今日は、北海道開発局様をはじめ、国の機関の皆様、釧路総合振興局様をはじめ道の機関の皆様、それから関係各所の団体の皆様、毎年、こういった機会を提供いただきまして本当にありがとうございます。こういった機会が、地域の連携や考え方の共有に繋がるのではないかなと思ひます。よろしくお願ひします。

私からは、釧路市の広域観光の振興や二次交通などについて発言させていただきます。釧路市では、釧路・阿寒・弟子屈の3地区を枠組みとした広域観光の取組で「水のカムイ観光圏」で、Wi-Fiの整備等も含めて、高付加価値なアクティビティを提供するということで、実施しております。

当初の整備補助が終わり、維持管理については、なかなか補助もなく大変ではありますが、来年4月から、市独自の宿泊税も導入予定でございますので、そういった財源も含めてまた進めたいと思ひます。北海道におかれましても、ぜひ補助をまた、新たにいただければありがたいと思っております。よろしくお願ひします。

先ほど寺田局長から、インバウンドが道東は少し弱いとお伺ひしましたが、「ひがし北海道自然美への道DMO」にて、阿寒湖温泉・弟子屈町・斜里町で、観光庁から指定を受けて取組を進めているところです。

阿寒湖温泉は結構、インバウンドが来ております。今ホテルが新築中でキャパの問題もあり、少しだけ頭打ちになっているところですが、今後は本当に、伸びていく可能性というのはあると思ひます。我々としては、もう少し二次交通も必要かなと思ひますので、その辺りは要望させていただきたいと思っております。

また、釧路空港の国際線ターミナルについて、HAPの北海道内7空港特定運

営事業等マスタープランにも釧路空港に位置づけられていますけれども、稼ぎたいということもあるのか、新千歳とか、既存の旭川・函館等を拡充する方向で予算がまわっております。そうではなく、北海道を見るとやはり道東に一つ国際線ターミナルがあったほうが良いと考えておりますので、早期整備していただけるとありがたい。実際に、国際線ターミナルがあるところに、国際便が行く状況になるので、これが一番手っ取り早いと思っております。よろしくお願いいたします。

北海道も宿泊税について、同じ時期に来年4月から導入予定で進められており、使途として、施設整備はしない方向だと思いますが、是非、先ほども言いました、ホテルのキャパ、民泊とか小さな施設のキャパも含めて、やはり足りてない、夏時期特に足りないというのが現状です。我々もそういったことを考えていきますので、施設整備補助ですとか、インセンティブの方面も考えていただけるとありがたいと思っております。

インフラは、結構、充実していると考えております。キャパが伸びれば、我々は観光の素材を十分に持っていると思っておりますので、そこをどんどん伸ばしていく要素としていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

私からは以上です。

○釧路町 小松町長

いつもこの広域連携で、皆様方にお世話になりながら、色んな提案をしながらこの会議がしっかり形になっていけるという意味では、大変有効な会議でありますので、この場をお借りして私からも提言をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

当町は、釧路湿原国立公園と厚岸霧多布昆布森国定公園の二つがありますが、これらの観光資源を活用したカヌーツアー、ロングトレイル、サイクリング等のアクティビティと、広大な自然環境で育まれた農産物・海産物。こういったものを融合した体験型観光が主なものとなっております。食材は特に、他の市町村との広域でのコラボによって、価値が上がっていくと思っておりますので、そういった開発を検討していったらどうかと考えております。

それから、岩保木水門が治水事業の歴史的建造物として、土木遺産に認定されたことで、当町にとっては大変嬉しい話でありますし、釧路川、そもそも注目はされていますが、また一つ、注目度、関心が高まったと思っております。当町には細岡展望台もありますけれども、こういった土木遺産も含め、しっかりと点から面に変えていき、訪れる方々にしっかりとそういった歴史も含めた観光誘導ができないかなと、管内にはそれぞれドラマがあるので、歴史的背景を含めたものを具体的に提供していくことにより、長期滞在もできるのではないかと考え

ております。

また、ガイドの養成が、ますますこれから重要になっていくと考えており、色々なガイドの形はあるのですが、全般的な行程を全てガイドするスルーガイドの育成です。今は、釣りとかカヌーとかのそれぞれのガイドはいますが、これとてさえ、まだ人材が足りていないんじゃないかと思います。

まだまだこれからインバウンドの方々が来る場合、特に今協議をしている、「釧路川流域かわまちづくり協議会」の中で、釧路川が屈斜路湖から壮大な 154 km、その距離のカヌー体験というのが、かなり希少なものでもありますし、全国的にもかなり有効なものになるということもありますが、そうなりますと、地元にいるガイドの質が問われてくる。そういう意味では、人材の育成について、レベルアップした取組が必要ではないかと。場合によっては、地元でガイド養成のいわゆる大学なり高校なりのレベルでのコースなどをつくり、学ばせるということも一つの選択として考える必要があると思います。どこの高校がやるかは別にしても、そういったことも視野に入れた取組が必要ではないかと思います。

もう一つ、今回、カムチャッカを震源とした津波警報が出されました。当町においても、釧網線に乗っていた観光客が、遠矢の学校に避難するという状況になったわけであります。もちろん、受入はしっかりやりましたけれども、訪れる観光客に災害リスクの高いエリアと位置づけされるのであれば、我々が広域的に、災害時のしっかりした対応とともに、いわゆる安心して来てください、いざ災害が発生したときにはこういった対応ができますと、ということも含めたアピールをセットでやっていかないといけない。訪れる人たちは釧路・道東となると、千島海溝沿いのリスクの高いエリアと考えてしまいますが、エリアによっては安全なところもたくさんあります。それぞれの自治体ではそういった避難所・避難場所の開設なども含めて、色々な対策をしていますが、そういった情報が訪れる観光客になかなか伝わっていないのではないかなと、そういったことも含めた取組もこれから必要になっていくのではないかと思います。

私からは以上となります。

○厚岸町 三浦町長

私は、7月13日に就任した町長の三浦と申します。

北海道をはじめ釧路開発建設部、お集まりの皆様におかれましては、厚岸町へ多大なるご支援・ご協力いただいておりますこと、改めて感謝を申し上げます。

今までは、こちらの随同行の職員ということで座っておりましたが、立場が変わって、今回から厚岸町長としてこの会議に参加しております。今後ともよろしく願いいたします。

今日のテーマに沿って、発言をさせていただきます。厚岸町では、豊かな自然が認められ、令和3年3月30日、厚岸霧多布昆布森国定公園として指定されました。

現在、5年目を迎えており、4町で札幌での観光物産展の実施やイベントを行っておりますが、まだまだ国定公園の認知度が低く、これからも4町合同でのイベント参加やSNS活用にも取り組んでおります。

昨年度、関係4町と小学4年生～6年生に向けた授業の副読本として国定公園ガイドブックを作成し、地元子ども達に国定公園はどういうものかという教育をしながら、更には管内外の皆様にPRをしております。

また、厚岸町では、漁協、農協、観光協会、商工会、道の駅と「厚岸町観光プロモーション実行委員会」を組織し、PRを行っております。今年度は、3つのイベント、特に厚岸ウイスキーを使った観光イベント、厚岸というと牡蠣だったが、最近はウイスキーと皆様からお話をいただいております。厚岸町という名前が、ウイスキーを通じて知名度が上がったことはありがたい話ですが、金額も高く、手に入らないことから、なかなか皆様のお口にも入らない状況かと思えます。

そういった中では、このウイスキーをテーマにして、3つのイベントとさせていただきますが、8月9日に札幌競馬場にて厚岸特別レースとして物産展とハイボールの出展、8月23～24日に東京の麻布十番納涼祭りで蒸し牡蠣、ハイボール、また地ビールも出典します。海の特産品イメージからお酒のイメージも持たれていると思いますが、厚岸町の名前をPRするものがまた一つできたと考えております。9月には雨竜町の収穫祭りに、漁協の付き合いもあり生鮮品やウイスキーを提供させていただきます。

10月18日には、初めてのイベントとして厚岸ウイスキーを使ったイベントについて、全国に募集したところ、定員40名のところ、450名の応募がありました。今回初めてのイベントですが、厚岸町のみならず、釧路管内は様々な自然がたくさんある良い地域です。厚岸町には牡蠣・あさり・ウイスキーなどの特産品がありますが、来年以降、厚岸町のみならず、せつかく道外やインバウンドの方々が来る中で、プラスアルファの周遊観光、これを釧路管内広域に取り組んでいければと思っております。

やはり問題であるのは、タクシー問題で、夜8時までしか営業していないことが問題でございます。

また、道の駅コンキリエは、多く支持をいただいておりますが、それ以外の飲食店が減少していることが一番の課題となっております。

先ほども小松町長からありましたが、人手不足によってガイドになる方がいない、自然を活用できる厚岸町の魅力を発信するには、ガイド育成が必要ではないかと思っております。

人口減少・人手不足と難しい問題がありますが、釧路管内が広域で連携し、こちらに人を呼ぶような良い知恵を出し合いながら、魅力を発信できればと思っていますので、今後とも皆様と機会を設けながら、こういった形で広域観光の振興を進めるかを検討し、これからも一緒に頑張っていきたいと思っていますところでございます。

私からは以上です。ありがとうございます。

○浜中町 齊藤町長

皆様大変ご苦勞様でございます。浜中町長の齊藤でございます。

本日、広域観光の推進と地域活性化といったテーマで、皆様とともにこういった機会を設けていただいたことに、本当にありがたく思っております。共にこの地域を盛り上げて行きたいと思っておりますので、皆様の意見を聞きながら、今後の推進に役立てていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

先ほどより出ていますが、釧路地域の共通の強みは風光明媚な景観、恵まれた自然環境にあると思っております。豊かな自然環境をベースに、体験型観光やクオリティの高い食材が豊富にあるということで、これを活かした広域観光を進めていかなければならないと思っております。

浜中町につきましては、厚岸霧多布昆布森国定公園の一角を担っております霧多布湿原をはじめとしまして、豊かな自然環境に恵まれております。この環境を最大限に活かして、カヌーツアー、乗馬などの体験型観光を進めているところでありますけれども、アニメのルパン三世の原作者モンキーパンチ先生の出身地であることや、野生のラッコが車から降りて数十秒で見られる町でもあります。他の町では見られない本町ならではの観光資源がたくさんあるといったところであります。

今日は農協の高岡組合長も来ていただいておりますが、最近はコープはまなかのヨンゼロソフトを目当てに浜中町を訪れる観光客も多くおまして、一日だいたい 1,200 本ほど売れるということになっております。ソフトクリーム目当てに来て、湿原センターで湿原を見て、岬でラッコをみて、霧多布温泉ゆうゆうに入って帰るというルートが確立されているとのことでございます。

これらの資源が、浜中町だけでなく、釧路管内全体の活性化の一翼となればと思っていますところでございます。

厚岸町長からもお話ありましたが、釧路町、厚岸町、標茶町と厚岸霧多布昆布森国定公園を舞台として観光ルートの造成をしております。我が町は釧路地域の最東端でございまして、本町への誘客促進が釧路地域全体の活性化に繋がると思っています。

ただ観光事業者の担い手不足、情報発信の不足といったところで、全国全道に

広まっている状況ではないと思っております。浜中町としては、課題解決の一步として、4月から地域おこし協力隊6名にお越しいただき、観光振興を含めて情報発信をしていただいているところです。観光推進PR支援員、タウンプロモーション推進員、移住交流コーディネーターとして、町に新しい目線で賑わいをもたらしていただいておりますし、6名がそれぞれ地域住民と交流を深めながら賑わい創出に向けた活動を、様々な角度から実施していただいています。今後、町としましても、この活動を支援しながら、移住促進、雇用創出も含めて効果を期待しているところです。

全国と同じく、人口減少・少子高齢化といった共通の課題がございます。釧路管内のみならず、釧路根室を合わせた形で広域的に取り組まなければ、道東地域が上手く回っていかないと思っておりますので、まずは各町が抱えております観光施設を含めた施設の老朽化対応、インフラ整備については、国・北海道へも強く要望していただきながら、管内全体が持続可能な観光地域となり得るように、皆様とともに力を合わせていきたいと思っておりますので、よろしくお力添えをいただきたいと思います。

私からは以上です。

○標茶町 佐藤町長

皆様ご苦労様です。標茶町長の佐藤です。

今回のテーマは、管内にとって非常に重要なテーマだと思っておりますので、町の考え方や取組を説明させていただきます。

資料にもあげていますが、観光協会で色々な事業を展開していただいております、特に摩周・標茶・鶴居村の観光協会が連携してプロモーションボード協議会を設立し、昨年からは北海道観光機構の補助金を活用して、台湾の旅行会社の日本部門の担当者を招いて、現地で視察ツアーを実施しております。私も昨年12月に一緒に管内を回って、ぽん・ぽんゆに泊まっていたときに少し交流させていただきましたのですが、弟子屈町・鶴居村の色々な施設を回り、カヌーや雪上サイクリングを体験してもらって、アクティビティ含めて観光資源としては十分であると評価をいただきました。ぽん・ぽんゆの施設、サービスについても非常に高評価をいただいております、今年の9月上旬に、会社の経営陣の方もいらっしゃると聞いておりまして、積極的にPRをしていきたいと思っておりますので、是非、皆様と一緒に、今は3自治体の協議会ですが、管内で併せてそういったことも積極的に発信していきたいと考えております。

先日、期成会の東京視察の際に、チャイナエアラインの方に国際線の誘致の話もさせていただきました。そういったことを管内で実施したことも初めてでしたので、積極的に外に対するアピールをしていくことが大事だと思っております。

す。

それから、標茶町は馬産の歴史があり、軍馬補充部が戦前にあり、多いときには 4,000 頭くらいの馬を飼っておりまして、馬に関する知識をもった高齢の方がたくさんいる地域であります。数年前から乗用馬を引退した馬の終の棲家として預かる仕組みを町で立ち上げて、クラウドファンディングで毎年 3,000 万円前後の支援をいただいて、預かる仕組みを作っています。乗馬体験をしていた本州の非常に愛着のある方々が標茶に来て、特産品である星空の黒牛を買って帰るというツアーを、以前はやっており、今は停滞しておりますが、そのような面白い企画も行っております。それに関連して、受入牧場の近くに乗馬体験ができる民間事業者も出てきており、非常に経済効果も出ておりますので、商業ベースに乗せられるように支援をしていきたいと思っています。

資料に書いてないのですが、標茶の子ども達へふるさと教育として、9月になると思うが、小学生に乗馬を体験してもらおうという授業を進める予定をしておりますので、これは是非報道陣の皆様には取材をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それから、管内全体の強みをどう継続していくかということが重要で、湿原観光の中では、特に釧網線の位置づけが非常に重要だと思っています。これから存続が問題となっているノロッコ号であるとか、SL冬の湿原号、観光列車のロイヤルエクスプレスやひとめぐり号、JRさんも本当に頑張ってくれていると思いますが、これを管内全体で支援していただくことが大事だと思っていますので、是非お願いをしたいと思っています。

「釧路川流域かわまちづくり協議会」でも、釧路川の話も出ましたが、上流から河口まで下れる場所は釧路川が唯一だと思っておりますので、そこをもっと活用していくのと、また、今考えているのは、冬期間のカヌーは非常に魅力があります。安全対策もしっかりとやらなくてははいけません、塘路湖から釧路川まで出られる阿歴内川を中心に検討していきたいということは、開建さんとも話を進めております。そういうことを通じて、ガイドの話もありましたけども、通年を通じて、夏場は仕事があるけれども冬場はないところへ支援をする環境づくりができるのではないかと考えております。

細かいところですが、「ひがし北海道観光協議会」で作っている地図の入ったパンフレット、デジタル化されていますが、紙ベースで欲しいという方もいますので、事務局は振興局だと思っていますので、そういったことも是非検討していただきたいと思っています。

あと、情報発信について、色々な方からも出ていますが、管内の情報を一元化して、バラバラになっていると思いますので、国内向け・外国向けのアプローチをしっかりとできるような体制を皆様で作っていくことが良いと思っております。

すので、これから釧路地域が次のステージに行くためには、観光がしっかりとできている、受け皿や二次交通も含めて、来たけれど次にいけないとか、課題はたくさんあると思うのですが、しっかりとやっていって、まだまだ元気な地域として発信ができればと思っております。

是非皆様で、この場に何回も参加しておりますが、発言だけで終わってしまう回もあるのかという気が少ししていますので、実効性が伴うものになるように、一つでも会議の結果これが実現したとか、そういう会議になればと思っておりますので、皆様で是非連携していただければ、私も頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

以上です。

○弟子屈町 吉備津副町長

弟子屈町の副町長の吉備津と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。今日、徳永町長でありますけれども、私どもの町に厚生病院という病院がありまして、その所在自治体の協議会が今日札幌で開かれているということで、協議会の会長が徳永町長なものですから、こちらの会議に出られないということで大変申し訳なく思っていますけれども、代わりまして私の方から発言をさせてもらいたいと思います。

それでは、さっそくではありますけれども、釧路地域または弟子屈町へお越しをいただくための取組を紹介させていただきたいと思います。

弟子屈町では釧路川の源流域で、カヌーが盛んに行われております。一部区間においては、通行規制はあるものの、釧路川を下流域まで下り、道東ならではの豊かな自然を満喫できる、ということになっております。特に、先日の期成会の要望におきましても、かわまちづくりとして予算確保の要望をさせていただいております。また、17日から明日23日にかけて一般社団法人釧路まちづくり研究所が主催をいたします、釧路川かわまちジャンボリーと題し、地域の河川を利用した催しも行われております。

次に、NPO法人弟子屈トレイルクラブが整備を進めております、摩周・屈斜路トレイルでは、摩周湖から美幌峠に至る約60kmをトレイルルートとして指定をし、本年度に全線開通を予定をしております。また、一部区間におきましては、阿寒・摩周国立公園満喫プロジェクトの一環である、昨年度全線開通をいたしました釧路市から羅臼町に至る北海道道東トレイルと重複をし、加えて、JR釧網本線と平行している区間も多いことから、徒歩や自転車・JR・カヌーなどと組み合わせをした活用が今後期待をされ、広域観光としてひがし北海道の魅力が凝縮されるものと考えております。

次に、特産品であります、昨年度開業いたしました屈斜路カルデラワイナリ

一や弟子屈チーズ工房において製造されたワインやチーズを新たな特産品として推進をし、既存の摩周メロンや摩周そば、摩周和牛、弟子屈ポーク等を含め、当町の特産品として来町者の皆様への提供とサービスの向上に努めることとしております。

次に、屈斜路コタン・アイヌ民俗資料館は、アイヌ民族の歴史や文化に触れる施設でございますが、開館から40年以上が経過をし、老朽化が進んでいることから、来年度に増築を含む大規模な改修を予定しております。順調に進みますと、令和9年度にリニューアルオープンをし、インバウンドへの対応や飲食の提供、休憩スペースやテラスの設置、通年開館などを通じまして、サービスの向上に繋げることができると考えております。

以上、弟子屈からの発言とさせていただきます。よろしくお願いを申し上げます。

○鶴居村 高松副村長

鶴居村の副村長の高松でございます。いつも大変お世話になっております。以前から管内の市町それから国、道の機関においては色々な連携の関係で大変お世話になっておりまして、お礼申し上げたいと思います。

本来は大石村長が出席の予定でしたが、昨日から自民党の過疎対策特別委員会の谷委員長、国会議員の方々、道内関係自治体の首長様が来村しており、本日までその事業がありまして、残念ながら出席が叶いませんでした。代わりに発言をさせていただきます。

やはり人口減少が本格的に始まっていく中では、交流人口の確保が非常に大事なことだと思います。これまでも様々な連携によりまして観光部門においては観光客の誘客等に取り組んできておりますけれども、鶴居村においては、冬はタンチョウが飛来しますので、冬の観光の強みとしてはタンチョウによる観光がありますけれども、夏は冬に比べると閑散期になっていたのが現状でございます。

そこで昨年度から、環境省から補助をいただきまして、地元の国立公園、釧路湿原国立公園の有効活用を主眼に置いて、稼げる観光、夏の間稼げる観光を実現しようということで、高付加価値で魅力を高めた観光コンテンツ、アドベンチャートラベル、北海道でも推進しておりますが、アドベンチャートラベルに主眼を置いたこの地域での展開を目的としまして、「釧路湿原観光コンテンツ創出協議会」を立ち上げたところです。

その中ではプロジェクト会議を設けておりますが、国の機関、北海道と関係機関にも参画をいただき村独自の、先ほど小松町長も仰っておいりましたが、ガイドの質の向上を図るために、特定地域の利用における認定ガイド制度の創出を行

うとしています。その特定地域、今回は宮島岬という釧路湿原に突き出しております岬であります、手つかずの自然が残っており、それが鶴居村の強みでありますので、認定ガイド制度により、そこの利用のルールを明確化しようとしています。そして、土地の所有者であります西武不動産、そして環境省、鶴居村と三者による包括連携協定を結びまして、より具体的に事業を推進していこうということで取組を始めたところです。

今年もあわせて補助をいただきながら、実は今年度から国の地方創生 2.0 の関係で、「地方創生伴走型支援制度」、北海道は6箇所だったと思いますが、その1箇所として採択を受けまして、地方創生支援官から今回の事業に対する支援をいただいているところです。

そして、先月の25日、地方創生支援官の来村で色々と課題整理をしながら、意見交換会を行ったところですが、同日には伊東内閣府特命大臣が来村されて、これまでの取組の報告と今後の事業の進め方についてより深い議論を行ったところでございます。

鶴居村が持つ唯一無二の国立公園、先ほど齊藤町長も仰いましたけども、景観であったり食であったり、この地域には他にないものが沢山ございます。この強みを活かした事業を鶴居村だけでアドベンチャートラベルを進めるのではなく、広域的な視点でアドベンチャートラベルを進める必要があると思いますので、今後具体的にこの事業が進んでいった際には、各市町村に様々なお願いをしていこうと考えているところでございます。

道東道の延伸という非常にこの地域にとってメリットあることもございますし、今までの各市町との連携も進めてきているところでありますので、そういうものをベースにしながら、鶴居村は宿泊施設も限られておりますので、宿泊部門については釧路市、弟子屈町、標茶町といった近隣のまちにお世話にならなくてはなりません。

飲食店も先ほど三浦町長が仰っていたとおり、鶴居村も飲食店が限られておりますので、そういう部門で近隣のまちの協力を得る必要があります。

インバウンドについては、高い消費行動を見せているところです。鶴居村も先日、観光事業者がJALパックの3泊4日のツアーを組み、30万近い値段でしたが、すぐ埋まってしまったとのことでした。

したがって非常に地域にとっては経済的なメリットもありますので、そういうところを鶴居村だけではなく、地域の近隣の自治体も同じく享受できれば良いと思います。

どうしても今アドベンチャートラベルという主眼を置いてやっていますけども、同じく食の関係では今年から先ほど弟子屈町の吉備津副町長が仰っていたとおり、弟子屈の屈斜路湖カルデラワイナリーに鶴居村からのブドウを去年か

ら入れさせていただいて、ワインの醸造を始めておりますことから、食品の製造でも様々な連携が進んでいるところでありますので、色々と皆さんのお知恵を拝借しながら、この地域のバージョンアップについて、少しでも鶴居村も寄与できればと思っております。

以上、鶴居村の発言でございます。ありがとうございました。

○浜中町農業協同組合代表理事組合長 高岡委員

私、農業の代表として参りました高岡でございます。浜中町農協の組合長をやっております。

意見を出させていただいたのですけども、一次産業として1番最初にかかないといけないうのは臭いの問題をなんとかしなくちゃいけないと考えております。観光客の人たちが来ても、この臭いがこの地域の臭いだなんて、威張っていられるような状況じゃないので、やはりこの臭いを何とか軽減するような策を我々も努力しなければいけませんし、振興局さんも開建さんも我々に手助けをしていただければ、それが時間短く、努力が短縮されるのかなと思いますので、その辺のご協力のほうも、よろしく願いしたいと思います。

あと、ここに書かせていただきましたけど、広域連携ということで、その中で農業として何ができるのかと思ったときに、ソフトクリームなんかのスタンプラリーについて、私、勘違いしていたのですが、ソフトクリームのスタンプラリーがあると思っていたのです。でも実際にはないのです。地図みたいのはあるのですけれども、スタンプラリーみたいのはないということで、簡単に言うと浜中町は東の果てで、釧路の一番東なので、厚岸産の牡蠣とウイスキーを嗜んで、帰っちゃうということになると、浜中から根室の方まで行かないという状況になります。そこを釧路川の広域連携だとか、太平洋のシーサイドラインとか、非常に風光明媚なところがありますので、そこを連携するためにスタンプラリーみたいなものが、一助にならないかなというのが私の考えです。

それでソフトクリームだけではなくて、チーズ工房も各市町村にみんなありますし、非常に美味しいチーズを作っている方がいっぱいいますので、チーズだとかソフトクリームだとかのスタンプラリーをしながら、各市町村を回っていただく。そういうような事ができれば、足がかりになるのではないかなと思って、書かせていただきました。

それと、そのためには各市町村の皆さんが広域連携しなくては駄目ではないかと言われてはいますけども、各市町村の商工観光課の横のつながりって非常に薄いらしいとのこと。ちょっと聞いてみたのですが、なかなかちゃんとしたつながりがないというのを伺いました。これはやっぱり振興局さんあたりが旗を振っていただいて、月に1回だとか、月に2回だとか、集まっていいただいて、

弟子屈の川湯温泉に泊まって阿寒行ってそのまま知床行っちゃったっていうような状況を作らないで、釧路なり根室なりを全町回ってもらえるような、知恵をですね、各市町村の商工観光課の人間の定期的に集まりを作っていただけると、ありがたいのかなと思っています。

あと、宿泊施設ですけれども、先ほど、皆さんずっと言われていますけれども、宿泊施設が充実されている市町村と充実していない市町村がありますので、その市町村によってですね、自分のところの強みを出していく、キャンプ場だとかオートキャンプ場だとか、あとは、キャンピングカーが泊まれる場所を作るとか、そういうような宿泊施設のハードの面を作っていくことだけを考えるのではなくて、まずはやっていくということが大事ではないのかなと思っています。

あと、一番大事なことは、釧路の港湾の整備です。やっぱり豪華客船も入ってきます。今、インバウンドと仰っていましたが、豪華客船が第4埠頭に入ってくるという状況になっています。バスが足りないとか、色んな事が言われていますが、そうではなくて、本来であれば、釧路の繁華街の近くにその豪華客船が入ってきて、そのままお金持ちの人たちが、釧路の街の中を歩いてくれるとか、そういうような状況を作っていけないといけないと思っています。

港湾は釧路市の話ですけれども、釧路市だけじゃなくて、釧路振興局、根室振興局、オホーツクの方も含めて要望していくというのが大事ではないかなと思っています。これは経済も観光も両方関係してきますので、それが大事だと思っています。

あと、人の関係ですけれども、霧多布高校では「浜中学」を行っています。地元学を行っています、できれば小学校、中学校から地元学をやっていただければありがたいなと思います。地元学を行って、地元のいいことを知る。1年間で達成感を得る。座学だけではなく、いもを作ってみたり、乳搾りをちゃんとやって、生まれた子牛を1年間育ててみるとか、漁師の人だったら、浜でちゃんと魚を捕るとか、そういう地域学、地元学みたいなものによって、1回大学とか高校とかで出て行っちゃう状況が多いですが、就職して何かにぶつかったときに、そういえば地元で良いことあったよなって思ってくれたら帰ってきてくれるのではないかなって思います。それが、千人のうち1人でも良いと思います。地元の人ってやっぱり地元があるので、親や兄弟もいるはずだから、出て行かないんですよ、割と親元にいたいっていう若い人が今多いので、そういうのも含めてですね、ガイドが足りないだとか、人が足りない、オーバーツーリズムだという状況を少しでも、よそから人を引き込むだけでなく、生まれ育った人たちもそこにまた戻してくるとか、そこに留めるっていう努力をしていかなければならないのではないかなと思います。

○釧路根室圏まちとくらしネットワークフォーラム座長 宮田委員

私たち釧路根室圏まちとくらしネットワークフォーラムということで、ほとんど今高岡さんが良い話をしてくれました。ありがとうございます。

我々20年前に地域の高速道路が民営化されて伸びてなくなるのではないかとというときに作られました会で、行政の皆さんと地域の経済の皆さん、首長の皆さん方の期成会含めて、プラス市民の声を出そうということで、20年かかりましたけども道東道がこの前12月に全面開通でここから小樽、今は余市方面まで道東道が伸びています。

本当に時間がかかりますけどもみんなでやっていくとそういったことが実現されると思っております。本当に行政のみなさん含め首長の期成会の皆さん本当にありがとうございました。

私の方からもちょっといくつか、ほとんど時間がなかったので、少ししか書いていませんが、皆さんのお話のとおり、各市町村で色々な発信をしていますし、色々な活動をされています。これを外に向けてのSNSの活用とか、それから英語版ですね。これをしっかりとやらないと、どんどん伝わっていかないと。インバウンドにも。それから、インバウンドだけではなく、今のオーバーツーリズムでいきますと、非常にマナーの悪い観光客が押し寄せて、そのような外国人たちがたくさんいるところには行きたくないと、我々、日本国内で旅行するときもそのような人がいると、そういう意味では、みんな来るときにルール説明が重要と考えます。お風呂では静かにしようとか、お風呂が石けんで泡だらけになっているという。温泉ですよ。皆さんの地域の温泉でもあったのではないかと思います。あるいはゴルフ場行ったら穴だらけですからね。グリーンの上、ボコボコに穴を、ピボット直さないとか、好き勝手されています。ゴミ捨てられて汚くなっていますから。だから、来てもいいけれども、きれいにみんなで。日本ではお風呂に入る前に体をちゃんと洗い流してから入るのですよとか。みんなで宴会やって騒いだりしないようにしましょうねとか。SNSでも我々の地域からは環境を大事にしながら、みんなで気持ちよく旅行するような地域ということで釧路管内結束して発信していくと。

SNSの活用について、皆さんが仰っているとおりなのですが、先ほどからお話するように、今、体験型ツーリズム、アドベンチャーツーリズム、中でも、道東が最後の砦となると思います。ニセコなんかひどいことになっていますし、これが富良野に来て、そのあと来るのが道東ですね。このきれいな湖とか川とか山とかあるところを大事にしなければなりませんので、我々が結束して東北海道なのか、道東なのか、大きな括りの交流と情報発信のSNSサイトを協力して作って、ルール作りだとかというようなものを作っていかなければならないと考えます。

それとこの会議は毎年行われますけども、目の前の今年の取組はということで、去年の取組についてということばかりの話になるので、ここからですね、計画と同じように5カ年、10カ年の計画をマイルストーンを明確に立てて、例えば、今2025年からのような話を、例えば地域の色んなイベントを結んだ地域ラリーの、例えば、スタンプにしても、色んなものの情報共有については2年後に完全に完成させようと、それから、川湯が今すごい再開発、弟子屈町が進めております。そういったところが段々と形になってくるのがこの辺になってくると、あるいは阿寒湖畔も、今は、再開発が進んでいる。

色々な物が完成してきて、その前からも、今、ウイスキーがあったり、色々なものがあったり、プロットしていくと、こうなっていて、2030年には、この道東管内がこういうような地域でいこうといった目標だと、2035年、10年後にはこういう風になっている。その時に担い手の不足の問題だとか、ガイドの問題とかについては、色んなルールを作って、管内でも、例えば、教育大学とか、公立大でもやはり、英語とか、地域のそういったものをやれるような、国際的に通用するようなビジネスマン、観光だけじゃなくて色んなビジネスにそういった国際的なビジネスや何かが通じるような感性を高める、教育大学でも、全員が先生になるわけではないですから、そういった中では国際感覚を身につけながらビジネスをやるコースを、やっぱり地域で、そのコースの体験を各市町村が持っていらっしやいます色んな体験学、漁師の話や酪農の話、ホーストレッキングだとか色々あるじゃないですか、そういった体験ができると、そういうようなコースを作りながら、やっぱりプロットして、この5年後、10年後の我々の釧路地域を描いていくことが必要になっていくのかなと思っています。

特に、さっきの釧路からずっと羅臼までのトレイルあると思いますが、トレイルのコースの中で、世界のトレイルレースの関係者と私友達がいまして、話を聞くと、向こうでは携帯基地局が全エリアカバーしているそうで、山奥だろうがどんなところでも、海岸沿いでも、それが日本の場合は、人がいるところしかアンテナが建っていないということで、山奥とかで走れて安全に行ける場所があまりないと、コースはあるけれども、それで、彼らトレイルを3日間ぐらいつつと山奥入っていったりして行くのですけども、そこでLPWAという微弱電波を発信させる装置を使って、これは日本のアルプスだとか色んなところでやっているトレイルの地域ではやっているところが既にもうありますが、これをいち早く、例えばLPWAを利用して、トレイルだけではなく林業だとか山奥に入っていかなければならないような作業をしないとならないようなところに、LPWAを活用すると、実は釧路市は音別町というところですけども、音別に流れています川の上流で、大雨が降ったときに水門を閉じるのか開けるのかというような判断は毎回、音別町から30kmぐらい離れているところまでずっと車で走っ

て行きます。職員がそれを目視して、その後で開けるかどうかという連絡を取っていたのですが、LPWAを設置しまして、奥地のところから、LPWAは微弱なので動画とか送れません、音声も送れませんが、テキストデータを送れるので、それから静止画も1分間ぐらいかけると静止画がくるのですよ。だから、カメラから見られるものを奥から見られるのですよ。それを使って目視して、ここまで来たら開けに行こうと、開けに行くのですよ。開けに行くのは人が行かなきゃならないらしいのですが。

例えば、その活用と同じなのですが、林業でもこれを使っているところでは、山奥に入っても携帯が届きませんと、そういう時でもLPWAエリアだったら微弱電波をいくつか基地局に置いておくだけで、トレイルコースでも同じですけども、そこで、こういう機械があって、自分からも微弱電波を電池で発信できます。

例えば、ここに皆さん使っているLINEみたいに、LINEとBluetoothで結んで、今ここでちょっと事故に遭っちゃって動けません、ここです、というものが送られるのですよ。そうすることによって、会話はできないけれど、位置と状況がテキストから送られてくるのですよ。そういったものをいち早くこの道東の釧路エリアでは管内含めて整備するとかね。そんなようなことをやるとか、あるいは、こういったことをやる時に若手のガイドをする人がいるでしょ。地域づくり協力隊とか。地域づくり協力隊の人たちに必ずこういったLPWAの活用だとか、あるいは、避難だとか、避難するような津波が来るようなときには1人ガイドの人たちも避難ガイドもするとか、色んな要素を持ちながら、移住してもらおう。移住促進の中で、移住するときにみんなと一緒にあって、そういったことをお手伝いいただいて、ガイドで入ってくる、それから、移住者として地域づくり協力隊に入ってくるとか、色んな体験を増やしていくことが大事になってくると思います。平時には観光や社会勉強などや林業や社会監視などの安全分野で活用し、地震や災害時、クマの出没などの有事にも活用できるような仕組みをつくり、早急に導入するべきです。

それと同時に各地域で、今日は観光のことなのですが、観光を含めてですね、町の歴史、私も正にそうだと思っているのですが、地域のガイドブック、ガイドブックというか歴史、自分のまちってこうやって発展してきました、魚とか山とか、観光もあるでしょう、釧路は特にこういうことで発展していきました。例えば、屈斜路湖、実は屈斜路湖からね、みんな知っていますけども、釧路川が流れているじゃないですか、昔は、あそこはクスリ・トゥという名前のアイヌ語の町で釧路もクスリと呼ばれていたわけですよ。それはもう聖なる川がこう屈斜路湖から流れてこうきているわけですね。その歴史だとか、そこで硫黄山があって、硫黄を川つたえに釧路町まで下ろしていって、そこから硫黄がここで取れてい

る硫黄が日本の近代製鉄業の、つまり鉄鉱石と石炭と硫黄がないと鉄ができなかったわけですから、これを支えてきたのが実はこの川湯の硫黄なのですね。

ですから、そういったことをしていくときにすごい地域であるということ、水揚げもずっと釧路が、日本一が続いて、今どっと落ちて戻ってきていますけど、当時の8分の1くらいですか今は、それでも復活してきています。

これをこういう取組を通じてこういった地域であると、地域の子供達や我々も勉強していく地元学と言っていました、自分の郷土の歴史や風土、生活や生業の歴史などを、こどもから大人まで学ぶ、知る、交流することは非常に良いと思います。それを是非運動して道東の、この5カ年、10カ年のビジョンの中でこのぐらいにはみんなで作って各地域でこういったことを開始しよう、観光の地域の子供達にはこういった教育から始めようとか、あるいは、家族を含めて、移住者のためにはこういった地域になろうと、移住者に必要なのは、住宅です。ちゃんとした住宅と教育が受けられるのか。医療がちゃんとした形で、体制になっているのか。これは我々の広域の医療の体制も含めて、色んな事がここに寄せられて、いい人材が集まってくるようなエリアにしていければいいのではないかと考えていますので、みんなで頑張っていこうと思います。

○釧路公立大学地域経済研究センター長 中村委員

釧路公立大学地域経済研究センター中村です。私の方からは観光の話ということで、記載したところですが、釧路地域に資源があるのだけれども、観光に求めているものは国籍とか世代とか、当たり前なのですが、異なるというところを理解した形での情報発信が必要だという話をしようと思っています。

私の方のセンターでは、コロナ前なのですが、観光のクルーズ船ですね、釧路に来る、アンケートを取ったことがあるのですが、当然釧路に来る、釧路で降りるような人は釧路湿原とか自然とかに当然興味があるかなと思ってアンケートを作ったのですが、実際興味あるのは日本文化とかアニメとか、街並みとか、確かに、中高年層は、外国人ですよ、ヨーロッパ系の人っていうのは自然に興味があるのだけれども、20代30代で釧路に来るクルーズ船も高級から中級まで色んな人がいるのだけれども、若い人、中堅層でアジア系の人とかだとむしろ街歩き、だからむしろ南大通とかあの辺りでいうと、南大通から行って、米町公園行って、厳島神社行って、とか、そっちのほうにむしろ興味があるのと、ただ、興味があっても、なかなかアクセスが悪いし、お昼ご飯食べようと思ってもどこも開いてなくて、という感じで、何かこう我々の考えている皆様はこういうものを求めているということと、客層のニーズがだいぶ違うなとか、インバウンドについてはそうだったんですね。また、国内観光客を考えると、当然アクティビティツーリズムとかも良いんだけど、我々釧路公立大の9割は地元

以外だから、1割しか地元いないですから、だいたい釧路初めての人多いですけど、やっぱり、私も若いときそうだったけど自然にはあまり興味なくて、ただ、その代わり人の営みというか、むしろまちづくりというより、地域振興というよりも、人がどういう生活をして、何を考えて生きていて、こういうふうを楽しんでいる、みたいな人の営みみたいな意味での地域づくりとかまちづくりには興味がある、ただ、釧路湿原はまだもう少し40歳過ぎてからで良いかな、みたいな感じの子たちがすごく多い。これでまた学生だからお金がない、今の子だから車がない、免許がない、だから当然そこにもアクセスができない。だけど地域のまちとか人の営みには興味があると、ただ、そういう子たちも好きなものにはお金を出すのだけれども、そういう子たちはうちの大学以外にも全国にいたるだろうけど、若い日本人に釧路の観光、我々の情報発信が刺さるのかというと、ちょっとなんかずれるのかなと感じます。

そこで、学生と話していると、これが良いのですよとか、自然が素晴らしいっていう、良いものを決めつけられてもちょっと困っちゃうよねという話をされるので、そうするとですね、マーケティングだとプッシュ型という供給者側でこれが良いのですよと言って情報発信をするものが中心なのだけれども、マーケティングにはもう一つプル型といって、撒き餌みたいなのをしながら待つようなスタイルのマーケティングがありますけれども、顧客ニーズ、色んな外国人でも欧米系・アジア系、日本人でも若い子・中高年、リッチな人、ちょっとお金がない人、そういうところで顧客ニーズが違うので、そういうセグメントを分けた情報発信を、地域全体で釧路湿原、自然アクティビティツーリズム、だけじゃなくて、色んな人が住んでいて、色んなB級グルメもあってまちなみもあって、若い子でたまに廃墟ツアーとか好きな子もいるのですが、そういうセグメントに分けた情報発信をしていく必要があるのではないかなと思います。

これは特に、釧路に来て初めて思ったことですが、もう8年目ですけども、外からいうと釧路は釧路湿原でバードウォッチングして、カヌーで、という、地元でカヌーやったことある人ってすごく少ないですよ。それから、根室とかに行ったらホエールウォッチングって、みんな行っているのかというと、ホエールウォッチング行ったことがある人なんてほとんどいないですよ。そうすると、地元はただファミリーだから、なかなか子ども連れだと大変な金額になるので行かない。ただ、地元の人がやらない、地元でも趣味の人とお金持ちの人しかやらないことだけが観光ですよといっても、そうするとちょっと客層を逃しているかなと考えます。

だから、その辺も踏まえて、多様なターゲティングをしたほうが良いですよ、と、そのときに、プッシュ型じゃなくてプル型だとすると、今、宮田委員が言われたようなサイトを統一したような形で色んなニーズに対応した情報発信、こ

れ私も色んな外で友人が来たときにアポを取ったりするのだけれども、カヤックでも別寒辺牛のカヤックやりたいなとなっても、なかなかマニアックなので探してアポを取るまでが大変、そういうのも含めて、しかも外国人で、観光業者に、英語がちゃんとしゃべれるか分からない観光業者に、携帯ですっとやらなくちゃいけないぐらいで、頑張らなきゃいけないので、そういうところをもっとやった方がいいかなというところですね。

最後は情報発信のほかに二次交通の話です。皆さんもう若い頃世界とか沖縄とかカナダとかメキシコとか色んなところで遊んだことが、私も遊んでいましたけれども、世界のリゾート地の中でアクティビティをやって、アポを取って翌日そこに自分の車で来てくださいというところってたぶん北海道だけかなと思っていて、沖縄でダイビングしていても、メキシコに遊びに行ってもカナダでスキーとかヘリコプタースキーとか色々遊んだりしても、必ずアクティビティをやったら翌日業者が迎えに来て、だから昼間からお酒を飲んでいても大丈夫な感じなので、日本でもちょっと法律の問題で運用が難しいということとか、実際迎えに行くお客さん、運転手さんが少ないとかはあるのだけど、もう少し観光客を増やせば、まずは常態になれば、アクティビティごとにピックアップして1日やって遊んで、という、車でちょっとわかんない道のところでカヤックの発着場まで来てくれとか、初めて来るところでしかも外国人で、漢字しか書いてない標識でどうやってそこに行くのですかみたいなのが非常に多いと思うので、そういう二次交通もそうだけれども、アクティビティでピックアップとか、世界のリゾート地では普通のことなのだけれども、そういうところも含めて、ただ色々な問題はあるのかもしれないけれども、そういう形でお迎えするような形が考えられればなと思っています。

ちょっと感想めいたことを言いましたけど、以上です。

○一般社団法人摩周湖観光協会会長 渡辺委員

摩周湖観光協会会長の渡辺と申します。よろしく願いいたします。今年の夏もたくさんのお客様が来ていただき、インバウンドの比率もかなり高くなってきていますが、オーバーツーリズムとまでは全然いつていない状況となっております。そこは管内の皆様のご協力を得ながら進めていきたいと思っておりますのでご協力お願いいたします。

「摩周・標茶・鶴居プロモーションボード協議会」にて、台湾へのプロモーションや動画の撮影を行っており、近隣市町村が協力して、食や観光を活性化させている状況です。

また、「阿寒摩周国立公園広域観光協議会」により、公園エリアの11市町が協力しあって満喫プロジェクトの取組や受入の環境整備などに力を注いでいただ

いています。

また、「ひがし北海道自然美への道DMO」では、地域の素材を活かして広域の二次交通の充実、ソフトクリームの携帯でスタンプを押す食べ歩き事業、高付加価値のインバウンド対策などを手掛けているという広域連携の事業をしています。

弟子屈町の対策として、農業と観光の産業間連携、食の充実などを手がけています。農業の素材を活かしたチーズ、ワイン、和牛、そば、牧場体験などを観光に活かしている状況です。9月13日には、J A摩周湖でお祭りが開催されまして、1,000食限定で新そばの提供が行われます。是非お越し下さい。

地域連携としては、川湯温泉で厚岸町のカキを「厚岸フェア」として食材で提供しています。また、道の駅摩周温泉で管内の特産品など、紹介させていただいたり、販売させていただいております。

夏季と冬季の繁閑差を埋めることが一つの課題でございます。夏は黙っていてもお客様が来ますが、秋から冬場にかけてかなり人の入りが少なくなるので、地元の人が気づかない冬の良さを活かす取り組み等を進めています。川湯温泉の霧氷や摩周湖の結氷予想などでおお客様の注目を集めています。

観光で働く人の人材不足の対策として、弟子屈町の役場としても隙間バイトのタイミーという会社と連携協定を結ばせていただいております。そういう人材不足を補うほんの数時間とか、自分の好きなときに働いている人もいますので、そういうものを活用させていただいております。また、インターンシップの受け入れや弟子屈中学生が今年、修学旅行を活用して地下歩行空間で弟子屈町の食材や人をアピールしたということもありました。

それから、札幌圏からの道東自動車道の延伸などがありますが、利便性の向上と釧路管内の食や景観をアピールするチャンスであるということで、札幌市内のホテルが高いというお客様の声があり、東の方にお客様が流れてきているという声もいただいております。

全体としては、釧路管内にある「当たり前」、各市町村で色々なものがあると思うのですが、PRする目玉商品も必要ですが、今まであった当たり前をすばらしい観光資源にする可能性がありますので、掘り起こして進めていけたらと思います。そして、地域にある食、歴史、自然、文化、人、産業などをPRしていくべきだと思います。これだけ、全国に色々な管内のモノが発送されていますが、是非とも地産地消で、地元で消費をしていただく、まわしていただく工夫、協力していく工夫が必要なのかと思います。

以上です。

○北洋銀行釧路中央支店執行役員支店長 本間委員

北洋銀行釧路中央支店の本間でございます。北洋銀行の中で釧路地区統括として責任を持ってやっております。先月着任しまして、実は釧路地区、勤務が三回目となります。30代、40代、50代と17、18年前に初めて来て、今回来てコロナ禍の前、後の変化を感じております。今日、色々と話を聞いている中で同じように課題認識もっておりますのでぜひよろしくお願いします。

北洋銀行、民間の金融機関の立場で若干お話しさせていただくと、北洋銀行では8月27日に長期ビジョンというのを改めて作りまして「北海道の魅力度、幸福度をともに日本一へ」を公表しました。日本一へということで非常に大げさのような感じですが、実は銀行では本気でやっていこうと考え、現在色々と取り組んでいるところであります。長期ビジョンは今までなかったのですが、やはり3年後、5年後、10年後に対する北洋銀行として地域金融機関として地域経済に対する危機感という中でやはり長期ビジョンをしっかりと形作ってやっていこうと位置づけてやっています。

そんな中で北洋銀行としては各自治体様と接点を持ち、色々なお話を伺い、課題について一緒に共有しています。解決策の一助として、「北海道オープンプラットフォーム」というフレームワークを作りました。金融機関だからこそできる民間だとか、道外、域外の事業者様または旅行会社、海外、各事業者、情報等を使いまして地域の観光資源、コンテンツを利活用していこうと、それを最終的にビジネスに乗せて地域に活性化、資金を落とすしていくような仕組み作りをかなり意識して今取り組んでいるところであります。

実際、今日ご参加されている自治体様ともかなり色々な会話をしながら色々ご提案とか課題を聞きながらやっておりますので、引き続き地域金融機関としてしっかりやっていきますので、是非、何かあればご相談いただければと思います。

最後に、今日は宮田委員をはじめ、各委員からの色々なご意見を聞きました。実は私、前任が「札幌南支店・すすきの支店」支店長でした。札幌中心部の狸小路商店街、駅前商店街、すすきの地区など、札幌中心部の統括を担っていました。インバウンドの方々、来られている方々の感性や考え方は、全く変化しているのがすごく身にしみて感じました。札幌中心部のお客さまも同じようなことを言っておりました。コロナ前とコロナ後、大きく変化しておりまして観光コンテンツだとか体験型だとかいうものに対する価値観を求めているとのことです。特に、SNSの発信など、例えばGoogleの口コミだとかGoogleのマップを使って見に行くという方々が非常に増えていると感じております。

お土産の話ですけれども、以前すごく買っていた爆買いの国の方々は意外とお土産を買わなくなりまして、逆に東南アジアの方々がお土産を買っていくだ

とか、あと、お隣の韓国だとか、カップルや家族で、自然、観光ならびに文化だとかを体験するっていうことでお金を使っていると感じます。行くところが非常に変化しているようです。観光資源に対する考え方が、札幌は飲食店等が揃い、行くところがあるとイメージを持ちますが、地域の事業者の方々からは、札幌市内は行く、見るところがないことが、皆さんの悩みでした。逆に見るところ行くところがある道東地域っていうのは、逆にすごい強みというか、魅力になるのではないかなと思っているところです。

北洋銀行は、道東地域の魅力発信、コンテンツ作り等について、自治体様、地域の皆様、本日の関係者の皆様方としっかりやっていきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

以上です。

○釧路総合振興局 寺田局長

色々なキーワードがあり、貴重なご意見ありがとうございます。

観光地の魅力の引き上げというのは、それぞれの地域でされているのだろうと考えておりますが、この広域観光は広域行政を担う道や国の役割が非常に大きいと考えております。

そうした中、広域観光を着実に進めるに当たって、どういった組織が、担い手としてあるのか、それぞれの観光のセクションに任せるとなかなか広域観光は進みにくいと思いますが、何かご意見はございますか。

○釧路公立大学地域経済研究センター長 中村委員

広域観光は、私が昔、政策投資銀行にいた時に研究したのがDMO、Destination Management Organization。それまでは自治体の観光協会が対応していたが、スイスや韓国で先進的に取り組まれていたDMOを日本にもつくり、それがインバウンドも含めた観光客に自治体のエリアを超えて情報発信し、観光コンテンツについても旅行会社ではなく、地元の着地型観光でやっていく。

釧路の阿寒地区にもありますが、DMOでの資金については、スイスでは、地元の人たちのお金とか、税金を使いながらマーケティングを行っている。道東地区といった広域のDMO、広域というか、連携するような形で大きなDMOとして活動し、それが単に一年に一回やりました、KPI達成しました、やりましたというのではなく、お金をもらってマーケティングして成果を出して、その成果が上がったら事業者からDMOにお金が入るような仕組み。日本でも進んでいるが、そのためにアメリカやヨーロッパでは、観光のプロにDMOを担ってもらっています。

日本のDMOは海外と比べてお金がなさ過ぎて、できることが少ないので、行

政のリソースをもう少しDMOへ移すとか、観光を一体として考え、一つ一つの自治体が広域の観光を考え、DMOが主軸になっていただくような取組を進めるべきと考えます。各地域で色々な事情があると思うが、観光資源にこれほど恵まれた地域は全国でも珍しいので、広域観光を担うDMOを司令塔として育てていく必要があると思います。

○釧路総合振興局 寺田局長

「ひがし北海道自然美への道DMO」や阿寒の取組もありますけれど、地域的に歯抜けの状態になっています。広域として扱ってないというか、そこがすごく弱いなと思っておりまして、これはですね、我々道庁も一緒に皆様に色々ご相談しながら、こういった担い手の形があるのかということを検討していきたいと思います。

○釧路市 鶴間市長

おっしゃるとおり、そういったことも大切ですが、実際にはなかなか難しい側面もあります。私どもも、弟子屈町さんとの「水のカムイ観光圏」などに取り組んでいますが、最初は補助をいただけるのですが、その後が続かないということで、その後苦しい状況になってきます。

ですので、例えば宿泊税の管内分を財源として、管内の全市町村が入るような形で枠組みを作って、事務局は振興局さんに担っていただければありがたいなとも思いますし、そういうやり方ならすごくうまく回るような気がします。

それぞれ広域で観光圏を作りますが、結構難しいので、連携して大きなことをやるというよりも、小さいことの積み重ね、人材不足はどうするのだとかそういったような課題に取り組む、そのようなことで進められればいいんじゃないかと感じております。

○釧路総合振興局 寺田局長

ありがとうございます。やはり、運用資金ですね。その財源をどうするかということと、役人ではなく、専門家がやらないとうまくいかないと思いますので、先ほど、宿泊税の取組についてお話がありましたが、そういったことも含めて協議していきたいと思います。

観光資源の認知度向上については、先ほど色んなお話がありましたが、情報を一元化すべきというようなお話と、さらには、ターゲット、セグメントを絞って、色んな人に響くようなコンテンツを作るというのが非常に重要かと思いました。

二次交通の充実につきましては、本当はもっと議論させていただきたかったんですけど、中村先生も仰っていましたが、アクティビティと組み合わせた

二次交通、これは仰っているとおりだと考えております。

季節偏在の解消ですね、ここも、鶴居村さんが色んな取り組みをされているということで、さらに観光人材の確保につきましては、これも中村先生が仰っていましたけれども、地元の人が、まずカヌーをしない、そういった中で、ガイドの人がどうやって生活をしていくか、そういった課題もあります。地域の人がアクティビティをするような環境、ガイドの人がちゃんと生活をしていけるような状況、そういったものを我々が作っていかなければならないと思います。

さらには、施設整備ですね、高岡委員も仰っていましたが、当町に泊まる所がなかったら、隣町と連携するなど、そういった組み合わせが非常に重要であると思いました。

また、宮田委員が仰っていたように、今後10年間どういうふうな絵姿を目指していくか、これは、今日いただいた意見をもとに、構想みたいなもの、あるいは、ロードマップのようなものを作って、皆さんと考えを共有して、一枚岩になって取り組んでいくことが非常に重要と思います。

先ほど佐藤町長も仰っていましたが、釧網線・花咲線がありますので、釧路管内だけでまとまってもなかなか上手くいかない面もありますので、根室とかオホーツク、そういった広域で連携して取り組んでいく必要があると思います。

時間がなくなって来ましたので、とりあえず意見交換はここまでということで閉めさせていただきます。どうもありがとうございました。

○釧路総合振興局 村地域創生部長

はい、ありがとうございました。それでは最後に、「4 その他」になります。各機関からの情報提供となります。

まず、北海道から参考資料1、持続可能な地域交通の確保に向けた取組ということで、1ページ目の地域公共交通計画についてでございますが、道内14の地域で広域的な地域公共交通計画を策定しまして、計画に基づき、バス路線の最適化など、様々な政策を進めているところでございます。下段に最適化の事例といたしまして、上川地域とオホーツク地域にて、広域の利便増進実施計画を策定した事例につきまして、ご紹介させていただきます。

2ページ目でございます。上川の事例でございますが、昨年7月に道内初となります広域の利便増進実施計画を策定しまして、昨年10月から開始したものでございます。計画の概要につきましては、(3)でございますが、①最適化として、中段のとおり、重複路線の競合解消を行ったほか、②利便性確保として、接続性の改善などを実施してございます。詳細につきましては、概要を3ページ目に記載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

続きまして4ページ目です。オホーツク地域につきましても重複路線の再編

のために2つのエリアで利便増進実施計画の策定を進めているところでございます。遠軽町・湧別町・紋別市方面で、左下の図のとおり、北見バスと北紋バスの3路線が競合していたところ、湧別町のバスターミナルを結節線としまして2社が運行区間を分担する2路線を再編するものでございます。右側の図のとおり、ルート変更やバスロケーションシステム、ICカードシステムの導入といった利便性の向上を予定してございます。

5ページ目ですが、北見市・美幌町・津別エリアの取組についてご紹介させていただきますので、後ほどご覧いただければと思います。

最後に6ページ目ですが、利便増進実施計画を作成した場合、国の補助の特例措置として赤枠で囲んでございますところの記載のとおり、補助要件が緩和され、導入におきましても要件緩和がされるところでございます。

公共交通の最適化につきましては、まちづくりに大きく関わるものと考えてございまして、検討いただく際の参考としていただければと思います。ご不明な点ございましたら、我々振興局地域政策課までお問い合わせいただければと思います。

北海道からの情報提供は以上でございます。

続きまして、寒地土木研究所から、技術支援につきまして情報提供をお願いいたします。

○土木研究所 寒地土木研究所 木下開発調整監

寒地土木研究所 技術開発調整監の木下でございます。参考資料2をご覧ください。

寒地土木研究所では、「土木技術のホームドクター宣言」ということで、地方自治体、地方公共団体様への技術支援を様々行っております。1つは、土木技術の関係で困ったことがあるといった技術相談を受けております。令和6年度には、道内市町村から29件のご相談がありました。

2番目、土木技術者の技術力向上ということで、開発建設部と技術講習会を秋に開催しておりますので、地方公共団体の方々もご参加いただけたらと思いますし、エリアごとに開催しているフォーラムではWeb配信も行っておりますのでご覧ください。また、地域で審議会等がありましたらオブザーバーとして参加いたします。

3番目として、災害時にもTec-ForceやMAFF-SATと連携し、現地に赴きます。

相談窓口ですが、寒地技術推進室にお問合せいただけたら専門チームへつなぎます。

3ページ以降は、使っていただきたい寒地土木研究所の研究成果を一覧にしております。4～6ページにいくらかピックアップしておりますので、気になる

ものがございましたらお問合せください。

7～8 ページ目は、私たちは土木研究所ということで、つくばの土木研究所にも地方公共団体向けの研究成果がございますので、こちらについても寒地土木研究所にお問合せいただけたらと思います。

以上でございます。ありがとうございました。

○釧路総合振興局 村木地域創成部長

続きまして、北海道経済産業局から情報提供をお願いします。

○北海道経済産業局 総務企画部 畔木企画調査課長

北海道経済産業局でございます。参考資料として、資料3-1、3-2、「イノベーション創出に向けた『経営×人材戦略』セミナー」のチラシをお配りしております。

参考資料3-1では、北海道経済産業局の取組をまとめております。資料の5ページでは、観光産業のブランド力向上に関する取組を記載させていただいております。また、GXの推進につきましても、北海道経済産業局ではGX推進チームを設置しGX実現に向けて取り組んでおります。11月中旬頃に農林水産事業者等を対象とした「GX×地方創生」シンポジウムを開催する予定でございます。

参考資料3-2として、「“使える！”令和7年度 経済産業省 支援メニューガイドブック」なるものをお配りしております。生産性向上に向けた補助金などを記載しております。農業分野でも、設備投資などに御活用いただいております。また、新事業創出へ向けた補助金を新たに募集しておりますので、是非ご活用いただけたらと思っております。

御不明な点がございましたら経済産業局までご連絡ください。以上でございます。

○釧路総合振興局 村木地域創生部長

ありがとうございます。最後に北海道運輸局より情報提供をお願いいたします。

○北海道運輸局 釧路運輸支局 矢島支局長

釧路運輸支局の矢島と申します。参考資料4になります。北海道運輸局からは「交通空白」解消に向けた取組について、ご説明させていただきます。地域創生の基盤でもあります地域交通は、人口減少や高齢化に伴い、利用者のみならず、運転手の不足も顕在化しており、全国的に地域鉄道やバス路線の減便、廃止が進

み、交通空白が生じている状況です。

交通空白を早急に解消するために、国土交通省では昨年7月に「交通空白解消本部」を設置し、自治体や交通事業者と連携しながら、地域住民の日常生活の移動を支える地域の足と、観光客と観光地までの移動を支える観光の足の確保により、交流人口や関係人口の促進に向けスピード感を持って取り組んでいるところでございます。

今回は各取組の1つであります「交通空白解消官民プラットフォーム」につきまして簡単に説明させていただきます。

このプラットフォームは交通空白にかかるお困りごとを抱えている自治体、それから交通事業者と様々な知見を持つ幅広い企業と連携した共同体制を構築することにより、課題とソリューションのマッチング、交通空白解消に向けたナレッジ共有を目指しております。

プラットフォームの参加は交通空白を解消する補助制度の条件の1つにもなっております。本年7月現在、北海道の自治体では79、4割が加入しております。本管内の自治体の中で、まだ加盟されていない自治体がございますので、是非お戻りになられましたら、資料を見ていただき、加入の検討をしていただけたらと思います。加入については加入費もかかりません、また内容につきまして何かお困りごとがありましたら、北海道運輸局なり、釧路運輸支局なりにご相談願います。

私からの説明は以上となります。

○釧路総合振興局 村木地域創生部長

それでは、次第の最後になりますが釧路開発建設部の畑山部長から、会議のまとめを兼ねて、閉会のご挨拶をお願いします。

○釧路開発建設部 畑山部長

本日は、お忙しいところ、長時間、活発なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。

昨年3月に、第9期北海道総合開発計画が閣議決定されており現在2年目を迎えております。先ほど9期計画の中の多様な主体の連携ということでいろいろな取組を説明させていただきましたけれども多様な主体の方々と一緒になって「共創」しながら、各種施策を推進するということを行っております。

本日「広域観光の振興と地域活性化」というテーマをもとに様々なご意見をいただきました。

私も他の場所での地域づくり連携会議に参加しましたが本日は非常に有意義なご意見をいただけたかなと思っております。

特にいろいろな課題、観光客の災害時の対応とか、情報発信、認知度不足、閑散期の対応等の課題をお聞きすることができましたし子供達への教育について、将来に向けた取組のアイデアを頂戴できたかなと思っております。

この地域の大きな特色でもありますけども、開発局としましては、今年の3月に釧路川、釧路湿原を活用する広域観光振興ということで、釧路川流域の全自治体が参画するかわまちづくり協議会を発足しております。

今後、流域一体のかわまちづくりの計画による釧路川それから釧路湿原の魅力創出に向けて、ハードそれからソフト両面でいろいろな取り組みを推進していくことを考えています。関係される市町村の皆さまにおかれましては、引き続きご協力のほどよろしくお願いしたいと思います。

また各委員の方からもご意見出ておりましたけれども、昨年12月に道東道が開通しました。これで釧路から札幌に直結。長区間だと余市や名寄といった方面まで直結しているということで、これを契機に我々開発建設部としましては十勝地域の方々やNEXCO関係者と連携しながら道央圏からの誘客活動、それから釧路と十勝の相互交流、こういったことを活発にしていこうということで、釧路総合振興局さんとも連携していろいろな取り組みを実は進めているところでございます。

今後とも釧路地域の強みである雄大な自然環境を生かした広域観光の実現で、先ほどご意見いただきましたけどぜひ実現性のあるものというご意見もありましたので先ほど振興局長からお話ありましたロードマップなどを作成しながら皆さんと共有していろいろな取り組みも推進していきたいと考えております。

最後になりますけども、皆様と共に連携して釧路地域の未来を作っていくと考えておりますので引き続きよろしくお願いしたいと思います。

本日は長い時間でしたけどどうもありがとうございました。

○釧路総合振興局 村木地域創生部長

ありがとうございました。それでは、以上をもちまして「令和7年度釧路地域づくり連携会議」を終了いたします。本日はお忙しいところ、長時間にわたり、誠にありがとうございました。

(以上)